

# 第2次瀬戸市地産地消推進計画

瀬戸市

令和3年3月

## 目次

第1章	策定の趣旨	1
第2章	計画の位置付け	1
第3章	計画期間	1
第4章	瀬戸市地産地消推進計画で実施した取組みの実績及び課題	2
	全体目標	
	基本方針1 安心安全な瀬戸市産農畜産物の供給	
	基本方針2 食育と連動する地産地消の推進	
	基本方針3 瀬戸市産農畜産物の消費拡大	
	基本方針4 瀬戸市産農畜産物のPR推進	
	基本方針5 地産地消ビジネスモデルの創出・推進	
第5章	第2次瀬戸市地産地消推進計画策定の方針	11
第6章	目標	12
第7章	地産地消を推進する施策	15
	1. 地域で消費される農産物の生産	
	2. 安心安全な農産物の生産	
	3. 瀬戸の豚の消費拡大	
	4. 食育と連動したPR	
	5. 学校給食等における地元農畜産物の使用拡大	
	6. 安定した販路の提供	
	7. 農民官が連携した商品開発	
	8. 農業者等が行う加工品開発及び高付加価値化の支援	
	9. 農業塾の開催及び卒塾生の継続的な支援	
	10. 地域で農業を支える農業者・企業・組織の支援	
	11. 市民菜園運営	
	12. 鳥獣による農産物被害対策	
	13. 瀬戸市農地バンク制度	
第8章	推進体制	25
	【参考資料】	26
	●瀬戸市の農業の状況	
	●ふるさと納税返礼品において農畜産物が選択される割合	
	●イノシシの捕獲頭数と農作物被害面積・額の推移	
	●道の駅瀬戸しなの食堂における瀬戸の豚を使用したメニューの売上割合	
	●学校給食の農産物発注量	

## 第1章 策定の趣旨

瀬戸市では、地産地消の推進による多面的効果を発揮するため、平成26年10月に瀬戸地産地消推進計画（以下「計画」という。）を策定し、「瀬戸市でつくる」＝地域の特色を生かした安全安心な農畜産物の提供と、「瀬戸市で食べる」＝消費者と生産者の信頼に裏打ちされた農畜産物の消費を2つの柱として、地産地消に関する施策を実施してきた。

計画に基づき、瀬戸市推奨農産物「せとのもの」の認証や学校給食への瀬戸市産農畜産物の提供など、着実に実績を積み上げ、市独自の地産地消に関する取組みが根付きつつある。その一方で、取組みを実施したことにより課題も見え、また、この間に本市の農業を取り巻く環境も、農業者の高齢化、後継者不足及び耕作放棄地の増加など大きく変化してきた。

そこで、これまでに実施してきた取組みの実績、効果を踏まえて課題に対応し、本市において農業を継続できる環境を整えていくことを目的として、第2次計画を策定する。

## 第2章 計画の位置付け

「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」（六次産業化・地産地消法）（平成22年法律第67号）第41条に基づく「地域の農林水産物の利用の促進についての計画」として策定し、第6次瀬戸市総合計画の施策を具体的に進めていくための実施計画と位置付ける。

なお、策定にあたっては、第6次瀬戸市総合計画を始めとする関連計画と整合を図った計画とする。

## 第3章 計画期間

第2次瀬戸市地産地消計画の期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間とし、必要に応じて計画の見直しを行うものとする。

## 第4章 瀬戸市地産地消推進計画で実施した取組みの実績及び課題

計画では、「瀬戸市でつくる+瀬戸市でたべる」を全体目標に掲げ、5つの基本方針に基づき具体的な取組みを進めてきた。

### 全体目標

計画では、地産地消の推進を図る目安として、瀬戸市地産地消率を目標に掲げた。

基準値 (平成25年度)	目標値 (平成30年度) ①	実績値 (平成30年度) ②	達成率 ②÷①
9.2%	13%	9.7%	74.6%

#### ※瀬戸市地産地消率算出方法

瀬戸市地産地消率＝瀬戸市農畜産物販売額／瀬戸市農業産出額

瀬戸市農業産出額については、対象品目に加え、道の駅瀬戸しなの等産直施設への農産物出荷分の販売額、瀬戸市における水稻等の生産量から算出

瀬戸市農畜産物販売額については、道の駅瀬戸しなの等産直施設における瀬戸市産農畜産物の市民への販売額、市内学校給食における瀬戸市産農畜産物の出荷額から算出

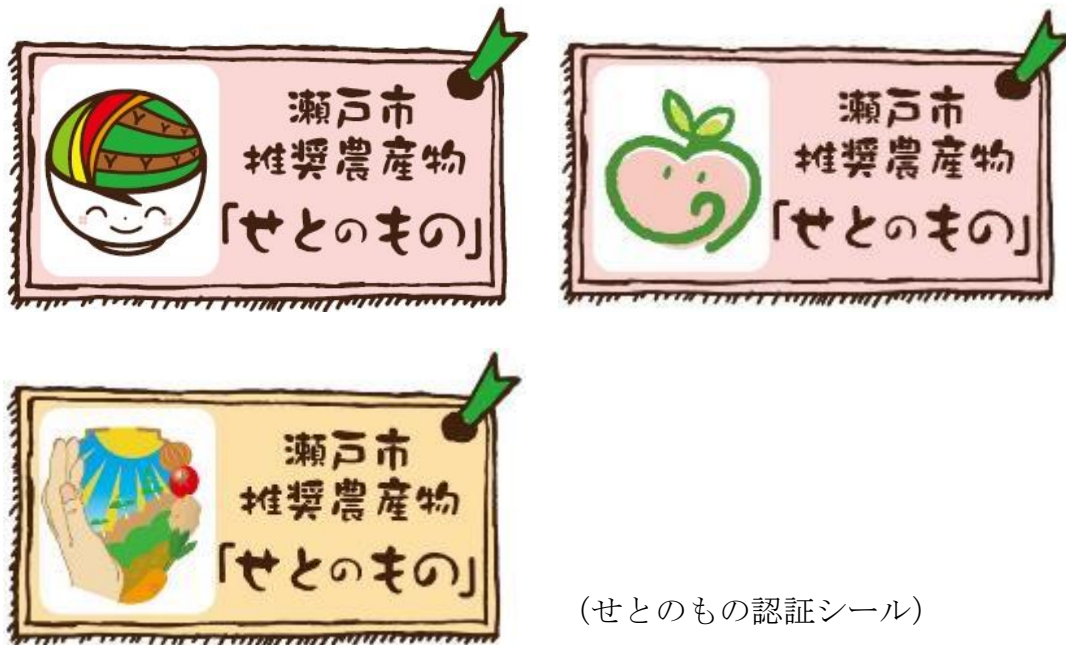
	平成25年度	平成30年度
① 瀬戸市農畜産物販売額	100,893千円	119,333千円
道の駅瀬戸しなの（農産物）	20,256千円	27,648千円
道の駅瀬戸しなの（畜産物）		15,639千円
農協産直販売施設	79,242千円	65,527千円
学校給食への納入金額	1,394千円	19,249千円
② 瀬戸市農業産出額	1,094,482千円	1,237,139千円
瀬戸市地産地消率 ①÷②	9.2%	9.7%

## 基本方針1：安心安全な瀬戸市産農畜産物の供給

### 1 主な実施事業と実績

#### (1) 瀬戸市推奨農産物「せとのもの」シールによる流通推進

○平成27年度にロゴマークデザインコンペを開催。市内の小中学校、高校等からデザインを募集し、3つのロゴマークを採用した。



(せとのもの認証シール)

○平成29年5月1日に瀬戸市推奨農産物「せとのもの」認証要綱、要領を制定し、推奨農産物認証審査委員会を設置した。

#### 【認証要件】

- ・対象農産物の栽培面積基準は、原則300㎡以上
- ・認証の対象農産物の生産ほ場の土壌診断を行い、その診断結果に基づき、施肥等を行うこと
- ・生産過程における化学合成農薬及び化学肥料（以下「化学合成資材」という。）の使用量が、「愛知県における主要な農産物の慣行レベル（平成25年3月21日策定）」（以下「県慣行基準」という。）に掲げる節減対象農薬使用回数及び化学肥料窒素成分量の75%以下であること
- ・市内畜産農家が生産する家畜由来の堆肥を使用すること

#### 【認定件数】

年度	件数	農産物
29	5件	すいか、里芋、自然薯、白菜、かぶ
30	5件	里芋、すいか、大根2件、玉ねぎ
元	5件	ヤーコン、里芋、すいか、玉ねぎ、大根

(2) 瀬戸農業塾の開催

○農業を始めたい方、体験したい方を対象に、農業に関する基本的な知識や技術を習得する農業塾を開催した。

【受講者数】

年度	野菜基本コース	農業実践コース
26	19名 (0名)	10名 (0名)
27	20名 (0名)	6名 (0名)
28	22名 (0名)	0名 (0名)
29	20名 (0名)	3名 (1名)
30	22名 (0名)	7名 (1名)
元	14名 (0名)	6名 (2名)

( ) 内就農者数



(H30.6 講義の様子)



(H29.5 圃場での実習)

(3) 耕作放棄地の利活用

○農業委員会において瀬戸市農地バンク制度を設け、耕作が難しくなった農地をデータベース化している。

○農業経営基盤強化促進事業により市民農園を開設し、農業塾卒塾生等に貸し出している。

【市民農園利用者数】

年度	市民農園整備面積	利用者数
26	1,075㎡ (5か所)	58名
27	2,131㎡ (7か所)	
28	1,059㎡ (3か所)	
29	0㎡ (0か所)	
30	0㎡ (0か所)	
元	814㎡ (3か所)	

## 2 課題

- 瀬戸市推奨農産物「せとのもの」認証制度を活用したことで売上につながるなどの効果までは出ておらず、制度を使用する利点が十分出せていない。
- 市の農業の実態に照らし合わせると、認証基準である原則300㎡以上の栽培面積で単一作物を育てる農業者が少なく、登録数を増やすことが難しい。
- 農業塾卒塾生の多くは自家消費規模の農業を行っており、耕作放棄地の利活用には一定の効果があるものの、農業者の育成・確保という点において改善が必要である。

## 基本方針2：食育と連動する地産地消の推進

### 1 主な実施事業と実績

#### (1) 瀬戸市産農畜産物の学校給食等への安定的な供給体制の確立

- 平成28年6月に「学校給食地場食材利活用に向けた生産・供給システムの構築に係る調査検討会議」を設置し、生産者（道の駅瀬戸しなの生産者の会・農協組合員・瀬戸市農事組合）、使用者（学校教育課・学校給食センター）、卸売事業者（瀬戸市卸売市場）及び行政が共に学校給食へ地場食材を提供するため、食材、価格及び時期などについて調査検討する体制を構築した。

#### 【学校への瀬戸市産農産物提供実績】

年度	提供回数	農産物	詳細
28	2回	お米	2回（11,1月各1回）
29	23回	お米	5回（11,12,1,2,3月各1回）
		玉ねぎ	17回（6月9回、7月8回）
		白菜	1回（10月1回）
30	16回	お米	8回（6,7,9,11,12,1,2,3月各1回）
		玉ねぎ	8回（5月1回、6月6回、7月1回）
元	30回	お米	7回（4,5,6,11,12,1,2月各1回）
		玉ねぎ	18回（5月3回、6月9回、7月6回）
		キャベツ	5回（12月3回、1月2回）

#### (2) 食育の推進

- 平成28年度に瀬戸市産の食材を活用したメニュー開発会議を実施し、14メニューを開発した。
- 学校給食に瀬戸市産のお米や野菜を提供する事業に合わせて、生産者と小学校児童との会食会や授業を開催した。

#### 【開催実績】

年度	会食会	授業
26	—	2校2回 （效範小・西陵小）
27	—	2校2回 （效範小・西陵小）



28	1校1回 (品野台小)	2校2回 (效範小・西陵小)
29	3校3回 (品野台小・下品野小・幡山西小)	3校3回 (效範小・西陵小・水野小)
30	4校4回(下品野小・品野台小・幡山西小・東明小)	3校3回 (下品野小・品野台小・幡山西小)
元	3校3回 (下品野小・東明小・幡山西小)	1校1回 (下品野小)



(R1.12 会食会 幡山西小)



(H30.11 授業 品野台小)

(3) 農業体験事業を通じた食育の推進

○地域で生産されている農作物の周知や消費者と生産者をつなぐことを目的に、親子を対象とした収穫体験バスツアー、学校給食への瀬戸市産農産物の提供に合わせた収穫体験、地元農業者の協力を得てお米作りを体験する授業を実施した。

【開催実績】

年度	収穫体験	お米作りを体験する授業
26	2回 (野菜/一般募集の親子2回)	2校 (效範小・西陵小)
27	5回 (お米/大学留学生・一般募集の親子、野菜/一般募集の親子3回)	2校 (效範小・西陵小)
28	1回 (お米/大学生)	3校 (效範小・西陵小・適応指導教室)
29	3回 (玉ねぎ/下品野小・幡山西小、野菜/一般募集の親子)	3校 (效範小・西陵小・適応指導教室)
30	2回 (玉ねぎ/下品野小、野菜/一般募集の親子)	4校 (效範小・西陵小・水野小・適応指導教室)
元	1回 (玉ねぎ/下品野小)	3校 (效範小・西陵小・適応指導教室)





(H29 玉ねぎ収穫 幡山西小)



(R1.6 田植え 效範小)

## 2 課題

- 瀬戸市産農産物は、学校給食の使用量に対して生産量が少ないため、気候や病害などの影響を受けると、安定して供給することが難しい。
- 生産規模が比較的小さい農業者が多いため、学校給食への納入希望価格が高くなる傾向にある。限られた予算で食材を調達している給食に提供するためには、補助が必要となるが、補助方法の確立が難しい。
- 授業時間数や学校の負担を考えると、多くの学校において、生産者等を講師とした食育に関する授業や会食会を実施することは難しい。

## 基本方針 3：瀬戸市産農畜産物の消費拡大

### 1 主な実施事業と実績

- (1) 地産地消推進のアンテナショップとしての「道の駅瀬戸しなの」の活性化
  - 道の駅瀬戸しなのの産直販売所において、生産者の作付けや出荷時期を調整し、年間を通じて瀬戸市産農畜産物を提供できるよう取組み、販売している。
  - 道の駅瀬戸しなのの食堂において、瀬戸の豚を使用した瀬戸焼そばやしょうが焼きなどのメニューを提供し、売上の約6割を占めている。
  - 平成30年度からキッチンカーを導入し、瀬戸市産農畜産物を使用した加工品の販売促進に取り組んでいる。

#### 【道の駅瀬戸しなのの実績】

年度	生産者の会会員数	産直販売所売上	食堂売上
26	227名	215,645千円	59,383千円
27	232名	203,955千円	56,159千円
28	242名	194,592千円	57,863千円
29	244名	180,061千円	53,033千円
30	245名	177,216千円	51,559千円
元	243名	183,223千円	26,770千円

(2) 地産地消イベントの実施（消費者と生産者のコミュニケーション）

○市民の瀬戸市産農畜産物に対する関心を高めるため、毎年11月に、農業者、JAあいち尾東及び農業関連団体と連携して、農業展を開催している。

【農業展来場者数】

年度	来場者数	農産物品評会出品点数	開催場所
26	7,000人	442点	品野陶磁器センター南 芝生広場（道の駅瀬戸 しなの隣接）
27	6,000人	367点	
28	7,600人	307点	
29	7,200人	276点	
30	7,800人	257点	
元	7,300人	258点	



(H30.11 農産物品評会表彰式)



(H30.11 生産者直売市)

○安心安全な農産物であることをPRすることと、消費者と生産者をつなぐことを目的に、平成30年11月から軽トラ市を2ヶ月に1回開催している。

○瀬戸の豚を広くPRし、販売促進へと繋げるため、瀬戸の豚を活用した加工品の試食を実施した。

【開催実績】

年度	回数・内容
29	3回 瀬戸の豚PR (9月せともの祭・9月招き猫まつり、12月道の駅瀬戸しなの)
30	2回 瀬戸の豚ソーセージ試食 (10・11月道の駅瀬戸しなの)

2 課題

○道の駅瀬戸しなのにおいて、様々な方法で瀬戸市産農畜産物の販売促進に取り組んでいるが、売上が減少傾向にある。

○道の駅瀬戸しなのの指定管理者と生産者の会とが連携し、消費者の望む農畜産物を供給していく取組みの検討が必要である。

## 基本方針4：瀬戸市産農畜産物のPR推進

### 1 主な実施事業と実績

#### (1) 消費者と生産者をつなぐ「せとのものコンシェルジュ」活動推進

○平成29年9月に「せとのものコンシェルジュ」の制度をつくり、現在12名をコンシェルジュとして認定した。

○コンシェルジュの協力を得て、農業展において「せとのもの」のPR活動を行った。

#### 【せとのものコンシェルジュの活動】

年度	回数・内容
29	農業展において「せとのもの 里芋」の試食会
30	「せとのもの かぼちゃ」のレシピ作成
元	「せとのもの 里芋及びヤーコン」のレシピ作成 農業展において「せとのもの 里芋及びヤーコン」の試食会



(R1.11 レシピの配布)



(R1.11 せとのものを使用した  
試食と販売)

#### (2) 瀬戸焼や瀬戸B級グルメ等と連携したPR

○道の駅瀬戸しなのの食堂において、瀬戸市発祥の瀬戸焼そばを提供する際、瀬戸焼の器を使用するとともに、瀬戸市産畜産物を使用していることをPRした。

○御前崎市（静岡県）、八王子市（東京都）、松崎市（宮城県）の道の駅と連携して、瀬戸市産の農畜産物を県外でPRした。

### 2 課題

○農畜産物そのもののPRは様々な場所で実施してきたが、「生産者の消費者との結びつきの強化」に重点を置いたPRが課題となっている。

## 基本方針5：地産地消ビジネスモデルの創出・推進

### 1 主な実施事業と実績

瀬戸市産農畜産物のブランド化推進・加工品開発

○養豚農家、卸売事業者及び市の取組みにより、オレイン酸値の高い豚を生産できるようになり、現在は、市内一貫生産で瀬戸の花「つばき」の油を飼料に添加して肥育した豚を瀬戸の豚と定義した。

○瀬戸の豚を使用した加工品を開発し、道の駅瀬戸しなのにおいて販売などすることで、市の農業生産額の約50%を養豚が占めている。

#### 【開発した加工品】

餃子、シューマイ、ソーセージ、ベーコン、コロッケ、トンカツ

○ふるさと納税返礼品において、約半数の方に瀬戸の豚の関連商品が選択されている。



(H30 シューマイ)



(R1 ソーセージ)

### 2 課題

○平成30年度3月から4月にかけて市内の養豚農場で豚熱（CSF）が発生したことにより、これまで試行錯誤を繰り返してきた瀬戸の豚の肉質向上や加工品開発の取組みが中断しており、養豚農家の経営再開の時期を見ながら、再度、取組みを開始していく。



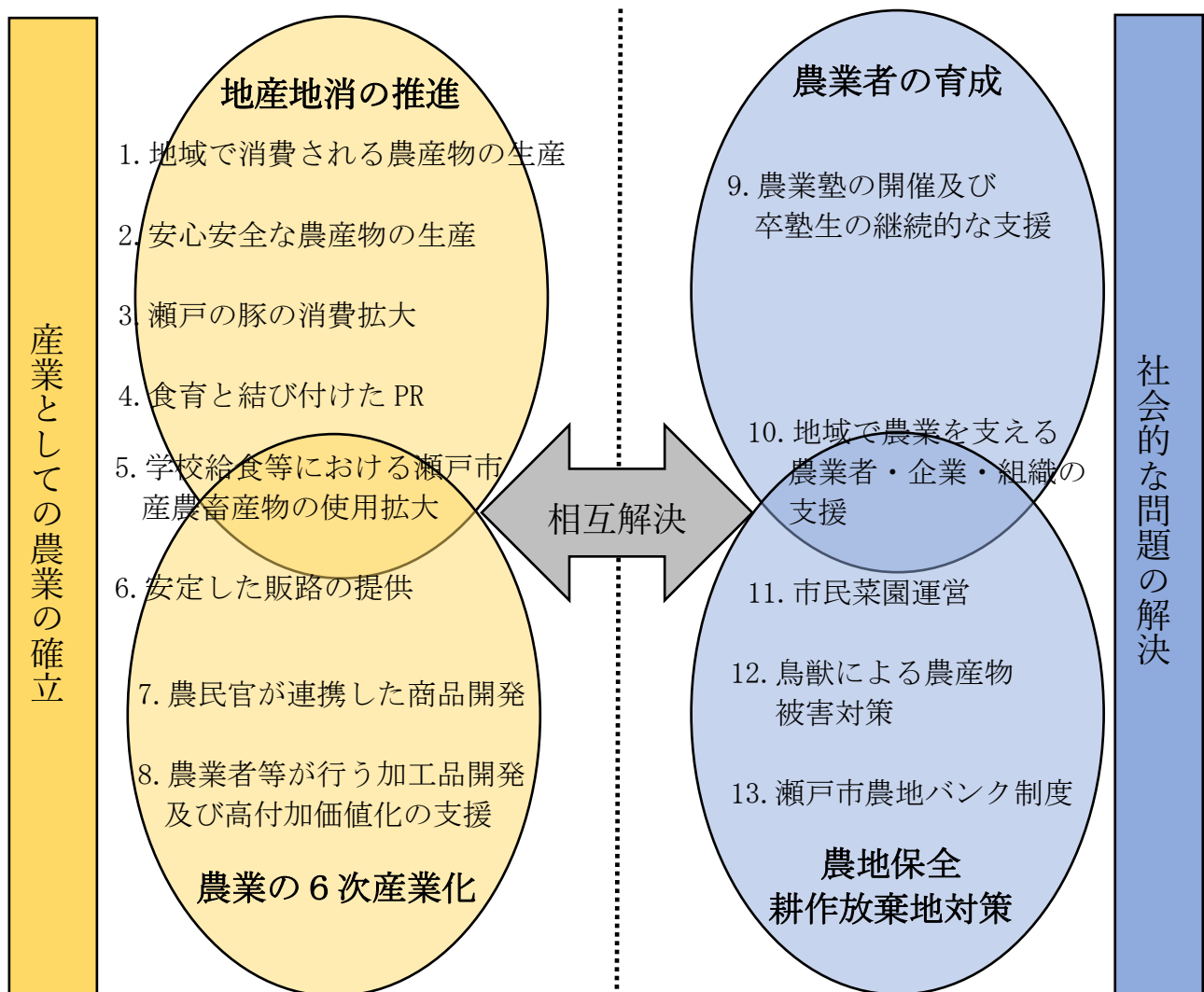
## 第5章 第2次瀬戸市地産地消推進計画策定の方針

第4章のこれまでの実施してきた取組の課題を踏まえ、本市が抱えている農業の課題を「産業としての農業の確立」と「社会的な問題の解決」に分類し、施策を体系的に整理して実施していくことで、瀬戸市第6次瀬戸市総合計画の施策目標である「農業を継続できる環境を整える。」ことを達成していく。

第1次計画の実績を踏まえ、第2次計画では次の2つを計画の軸としていく。

- ①行政の責任のもと、安定した一定量の消費先や販売網を提供していく。  
→農業者には、消費が確実に見込まれる農畜産物の生産を土台にしながら、生産力を高め販路を広げてもらう。
- ②6次産業化の推進及び農業者の自主的な高付加価値化を支援していく。  
→消費者ニーズ及び市場動向を調査し、消費者に選んでもらえる農畜産物の生産及び加工品を開発・販売していく。

第2次計画で実施する施策の体系図



## 第6章 目標

### ●全体目標

第1次計画と同様に、地産地消の推進を図る目安として、瀬戸市地産地消率を目標に掲げる。

基準値 (平成30年度)	目標値 (令和7年度)
9.7%	12.5%

#### ※瀬戸市地産地消率算出方法

瀬戸市地産地消率＝①瀬戸市農畜産物販売額／②瀬戸市農業産出額

瀬戸市農業産出額については、対象品目に加え、道の駅瀬戸しなの等産直施設への農産物出荷分の販売額、瀬戸市における水稻等の生産量から算出

瀬戸市農畜産物販売額については、道の駅瀬戸しなの等産直施設における瀬戸市産農畜産物の市民への販売額、市内学校給食における瀬戸市産農畜産物の出荷額から算出

#### ①瀬戸市農畜産物販売額

学校給食に瀬戸市産農畜産物を提供するなどの取組みを通じて、市民による瀬戸市産農畜産物購入額を増やすことを目指していく。

#### ②瀬戸市農業産出額

平成30年度を基準として維持していくことを目指していく。

●施策目標

施策目標を設定し、目標達成に直接関連する施策「◎」と間接的に関連する施策「○」を組合せながら、全体目標の達成を目指す。

施策目標 その1

					令和元年度実績					令和7年度目標※			
学校給食での瀬戸市産農畜産物使用回数					30回					75回			
関連施策	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	◎				◎	◎							

※重点事業成果指標

(アグリカルチャー推進協議会の支援有)

お米：11回/年＋玉ねぎ：20回/月×2か月＋他の農産物：20回/月×1か月

(アグリカルチャー推進協議会の支援無)

なす・里芋・さつまいも等5回

施策目標 その2

					令和元年度実績					令和7年度目標※			
地域特産物の開発支援件数					1件					1件/年			
関連施策	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
					◎		◎	◎					

※重点事業成果指標

施策目標 その3

					令和元年度実績					令和7年度目標※			
農産物直売所における瀬戸市産農産物の販売量					1,190t					1,246t			
関連施策	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	○			○	

※重点事業成果指標

施策目標 その4

					令和元年度実績					令和7年度目標※			
道の駅瀬戸しなの産直販売所における瀬戸市産農畜産物の割合(品目数)					40%					60%			
関連施策	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	◎	◎	◎	◎			◎	◎	○			○	

※地産地消推進計画目標

施策目標 その5

					令和元年度実績					令和7年度目標※			
新規就農者数(農業経営の目標に達する者)					0名					3名/年			
関連施策	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
					◎				◎	◎	○		○

※農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想(平成28年12月策定)目標



施策目標 その6

					平成30年度実績					令和7年度目標※			
鳥獣による農作物被害額					1,599千円					783千円			
鳥獣による農作物被害面積					254a					124a			
関連施策	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
												◎	

※瀬戸市鳥獣被害防止計画目標

施策目標 その7

					令和元年度実績					令和7年度目標※			
農地の紹介面積					0.2ha/年					0.2ha/年			
関連施策	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
					○				◎	◎			◎

※農業委員会の目標

1. 地域で消費される農産物の生産

(1) 学校給食で使用する農産物の生産

①玉ねぎ

【施策方針】

- これまでの納入実績を踏まえて、引き続き生産を行っていく。
- 次の3つの課題を解決し、安定した供給を実現していく。
  - ・学校給食での使用量に対して、生産量が少ない。
  - ・病気や天候不順の影響によって、品質が安定しない。
  - ・産直販売所の安定した価格に対して、大きく変動する市場価格に対応できていない。

【早急に取り掛かる取組み】

- 6月を中心に提供できるよう品種を選択してきたが、近年病害の発生が多いことから、安定して学校給食に提供できる品種・時期を検討する。
- 新規就農者に販路の一つとして学校給食への納入を活用してもらえるよう紹介するなどして提供農業者及び生産面積を増やしていく。
- 農協と連携を図りながら、病害や天候不順への対応を事前に通知・指導するとともに、生産経験の浅い農業者に対しては、巡回指導を行っていくことで、生産性を高めていく。

【中・長期的な取組み】

- 学校給食に提供できない規格の農産物について加工品開発などを行い、新たな販路開拓を目指していく。

【スケジュール】

年度	2	3	4	5	6	7
【早急に取り掛かる取組み】						
安定供給できる品種・時期の検討	→	→				
1か月分(10,000kg)を生産	→	→	→			
2か月分(20,000kg)を生産				→	→	→
病害や天候不順への対応通知・指導及び巡回指導	→	→	→	→	→	→
【中・長期的な取組み】						
規格外農産物の販路開拓		→	→	→	→	→

②提供の軸となる2つめの農産物の生産

【施策方針】

- 学校給食への農産物提供を、農業者に生産力を高め販路を広げてもらう土台とするため、玉ねぎの出荷時期と異なる農産物の提供を検討していく。

【中・長期的な取組み】

- 学校給食で使用するためには、学校の意向、使用量、調理のしやすさ及び価格のほか、農業者の意向及び農地の適合性など様々な条件が一致しなければならないことから、当面は試験的に農産物を提供し、どの農産物であれば学校給食に提供することが可能かを見極め、本格的な提供を目指していく。

【スケジュール】

年度	2	3	4	5	6	7
【中・長期的な取組み】						
学校給食での使用量、瀬戸市の生産量から品目を抽出	→	→				
学校給食で試験的に使用してもらい量や品質など使用に適するか判断		→	→	→		
1か月分の提供を目標に本格的に生産、提供				→	→	→

(2) 産直販売所（道の駅瀬戸しなの）利用者や消費者が望む農産物の生産

【施策方針】

- 道の駅瀬戸しなのでは、季節ごとに旬の瀬戸市産農産物が提供されており、消費者のニーズに当たっているが、売上が減少傾向にあり、また、道の駅瀬戸しなのの特産品と言えるものがないことから、利用者や消費者の望む（地域で消費される）農産物を生産していく。

【早急に取り掛かる取組み】

- 道の駅瀬戸しなのの利用者・消費者や生産者が望む農産物を調査し、道の駅瀬戸しなの生産者の会等と連携しながら、生産・納入の計画を作成するなどして、瀬戸市産農産物の生産を強化する。
- 尾張東部地域では、比較的高地にも農地を有している特性を生かした、農作物の生産・出荷を行っていく。

【中・長期的な取組み】

- 勉強会を開催するなどして、化学合成農薬の使用回数を低減した栽培や農業生産工程管理（GAP）の導入を検討していく。

【スケジュール】

年度	2	3	4	5	6	7
【早急に取り掛かる取組み】						
瀬戸市産農畜産物の取り揃え強化	→	→	→	→	→	→
消費者等が望む農産物を調査	→	→				
道の駅瀬戸しなの等と連携して地域ならではの農産物を生産・販売			→	→	→	→
【中・長期的な取組み】						

化学合成農薬の使用回数を低減した栽培や農業生産工程管理（GAP）の導入を検討		→	→	→	→	→
--	--	---	---	---	---	---

## 2. 安心安全な農産物の生産

### 【施策方針】

- 瀬戸市推奨農産物「せとのもの」認証制度を設立し、化学合成農薬の使用回数及び化学肥料の施用量を低減して栽培された農産物の認定を行っており、安心安全な農産物に対する関心度は依然として高いことから、引き続き認証制度を活用して、栽培を推奨していく。

### 【早急に取り掛かる取組み】

- 認証制度の知名度が低いことから、ホームページやノボリの制作など産直販売所でのPRを強化し、販売を支援していく。
- 出荷量を確保できるという条件を付けるため、「作付面積が300㎡以上」を認定条件としているが、作付面積が小さくても出荷量を確保できる農産物にも適用できるか検討し、多くの農業者に参加してもらえる制度に見直す。

### 【スケジュール】

年度	2	3	4	5	6	7
【早急に取り掛かる取組み】						
認証制度の知名度向上	→	→	→	→	→	→
認証制度の見直し		→	→			

## 3. 瀬戸市産の豚の消費拡大

### 【施策方針】

- 平成30年度出荷額で、約50%を占める瀬戸市産の豚については、平成31年3・4月に発生した豚熱（CSF）によって、大きな損害を受けてしまったが、現在は経営を再開しており、出荷再開期には消費推進を支援し、中・長期的に品質向上の取組みを支援していく。

### 【早急に取り掛かる取組み】

- 令和2年度末から令和3年度当初の出荷再開に合わせて、消費支援事業を実施する。
- 出荷再開後、価格や生産量などの推移を見ながら、学校給食での使用を検討していく。

### 【中・長期的な取組み】

- 品質の向上については、あらためて瀬戸の豚の定義を確認し、道の駅瀬戸しなののメニューなどでの使用を通じて、消費者の声を反映させながら、生産者、販売者及び市が連携して改良を行っていく。

- 品質が安定した際には、名称取得を検討する。

【スケジュール】

年度	2	3	4	5	6	7
【早急に取り掛かる取組み】						
出荷再開に伴う消費支援	→	→				
学校給食での使用を検討		→	→	→	→	→
【中・長期的な取組み】						
品質向上支援	→	→	→	→	→	→
名称取得を検討				→	→	→

#### 4. 食育と結び付けた PR

【施策方針】

- 地産地消を推進し、瀬戸市産農畜産物の消費量を増やしていくために、食育と連動した PR を実施し、消費者と生産者をつなぐことで、農業者や瀬戸市産農畜産物への理解を深めていく。

【早急に取り掛かる取組み】

- 農作物を生産することの大変さや瀬戸市産農産物への理解を深めてもらうため、収穫体験や農業展を実施する。
- 会食会や授業については、学校の要望に応じて継続していくとともに、紙媒体やホームページを使用して、農業者や農産物の情報を積極的に発信していく。

【中・長期的な取組み】

- 地産地消サポーター制度の導入を検討し、消費者、使用店舗などが瀬戸市産農畜産物を積極的に使用し、魅力を発信していく体制を作っていく。

【スケジュール】

年度	2	3	4	5	6	7
【早急に取り掛かる取組み】						
収穫体験及び農業展の実施		→	→	→	→	→
会食会・授業の実施		→	→	→	→	→
紙媒体・ホームページでの情報発信		→	→	→	→	→
【中・長期的な取組み】						
地産地消サポーター制度の導入検討				→	→	→

## 5. 学校給食等における瀬戸市産農畜産物の使用拡大

### 【施策方針】

- 学校に対して安定的に供給することができ、かつ、農業者に責任を持って農産物を育ててもらおう仕組みを構築し、使用量や品目数を拡大していく。

### 【早急に取り掛かる取組み】

- これまでと同様に、価格や規格など学校給食で使用できる瀬戸市産農産物については、「愛知を食べる学校給食の日（6月）」及び「地元の食材を味わう学校給食の日（11月）」を中心に随時使用していく。
- お米の使用については、農事組合の協力のもと、取組み開始から順調に使用回数が増加していることから、引き続き協力者を増やしていく。
- 農畜産物の価格は、天候等の影響を受けて大きく変動するため、事前に価格を決定することは非常に難しく、また、市場価格とあまりにも離れた補助を行うことも、持続可能な支援ではないため、市がある程度の負担を負い学校、農業者、農協及び市場と協議を重ね適切な価格を決定していく。

### 【中・長期的な取組み】

- 買取価格の安定と使用量拡大のため、規格外農産物の加工品を学校給食で使用できないか検討していく。
- 保育園等でも瀬戸市産農畜産物を使用できないか検討していく。

### 【スケジュール】

年度	2	3	4	5	6	7
<b>【早急に取り掛かる取組み】</b>						
愛知を食べる学校給食の日等を中心にした瀬戸市産農産物の使用	→	→	→	→	→	→
お米提供者の募集	→	→	→	→	→	→
玉ねぎの価格を事前提示	→	→				
価格決定方法等の検証		→	→			
価格を事前提示して協力農家を広く募集			→	→	→	→
<b>【中・長期的な取組み】</b>						
加工品の学校給食での使用検討		→	→	→	→	→
保育園等での瀬戸市産農畜産物の使用検討		→	→	→	→	→

## 6. 安定した販路の提供

### 【施策方針】

- 農業者には、消費が確実に見込まれる農畜産物の生産を土台にしながら、生産力を高め販路を広げてもらえるよう、行政の責任のもと、安定した一定量の消費先や販売網

を提供していく。

**【早急に取り掛かる取組み】**

- 道の駅瀬戸しなのを地産地消の拠点とするため、道の駅瀬戸しなの生産者の会等と連携を図りながら産直販売所において瀬戸市産農畜産物の取扱い品目数60%を目標に生産・出荷していく。

**【中・長期的な取組み】**

- ふるさと納税返礼品に瀬戸市産農畜産物を出品できるよう、どのような返礼品が選ばれているのか、時期・価格帯などを調査し、道の駅瀬戸しなのの商品開発に活用するとともに、収集した情報を農業者等と共有できるよう整備する。

**【スケジュール】**

年度	2	3	4	5	6	7
<b>【早急に取り掛かる取組み】</b>						
道の駅生産者の会及び指定管理者等と連携し作付指導・出荷調整		→	→	→	→	→
<b>【中・長期的な取組み】</b>						
ふるさと納税返礼品の調査		→				
情報を共有			→	→	→	→

## 7. 農民官が連携した商品開発

**【施策方針】**

- 既存の6次産業化製品に改良を加えるとともに、瀬戸市において生産量が確保できる農畜産物について、マーケット・インの考えを持って加工品等の商品開発を行う。
- 道の駅瀬戸しなのを消費者の評価を収集する場として使用しながら開発を行う。

**【早急に取り掛かる取組み】**

- 道の駅瀬戸しなのと協働して、瀬戸市産農畜産物を使用した食堂メニューを開発する。
- 農業者及び道の駅瀬戸しなのと協働して、ふるさと納税返礼品の目玉となる商品の開発を行う。

**【スケジュール】**

年度	2	3	4	5	6	7
<b>【早急に取り掛かる取組み】</b>						
既存製品の改良	→	→	→	→	→	→
食堂のメニュー開発	→	→	→			
ふるさと納税返礼品の開発	→	→	→			
食堂メニュー及びふるさと納税返礼品の評価を調査			→	→		
評価を踏まえて改良				→	→	→



## 8. 農業者等が行う加工品開発及び高付加価値化の支援

### 【施策方針】

- 行政が主導して瀬戸市産農畜産物を加工し販売することで6次産業化を進めてきたが、農業者や地域の農業者の団体又は販売事業者が行う、瀬戸市産農畜産物の高付加価値化や6次産業化の取組みを支援する。

### 【早急に取り掛かる取組み】

- 他地域との差別化、加工品開発及び販路開拓の取組みに対する補助制度を設ける。

#### 【スケジュール】

年度	2	3	4	5	6	7
【早急に取り掛かる取組み】						
補助制度の設立		→	→			

## 9. 農業塾の開催及び卒塾生の継続的な支援

### 【施策方針】

- 就農に向けた広い窓口的な講座として農業塾を引き続き開催し、農業に関心を持つ方を増やし、就農へつなげていく。

### 【早急に取り掛かる取組み】

- 土づくりや病気対策など、これまでの開催経験から必要と思われる内容を加え、講座の内容を見直す。
- 国の補助金等を活用して新規就農や施設整備の支援を行っていくとともに、農協や地域の農業者と連携を図りながら相談を受ける体制を整え、継続的な支援を行っていく。
- 11. 市民菜園、13. 瀬戸市農地バンク制度を活用して農地の紹介を行う。

### 【中・長期的な取組み】

- 営農を目指す卒塾生に対しては、地元農業者や農協、県の講師派遣制度を活用して、技術講習会を開催する。また、農業展覧品評会に参加してもらうことでの技術向上、地元農業者への橋渡しなど、就農へと導いていく。

#### 【スケジュール】

年度	2	3	4	5	6	7
【早急に取り掛かる取組み】						
農業塾の内容の見直し	→	→				
支援体制の整備		→	→	→	→	→
農地紹介	→	→	→	→	→	→
【中・長期的な取組み】						
技術講習会の開催		→	→	→	→	→

## 10. 地域で農業を支える農業者・企業・組織の支援

### 【施策方針】

- 農業者の高齢化や後継者不足等によって、農業者単体で農地を耕作することや、農業に必要な機械を維持していくことは、益々困難になっていくことから、農業者が組合や組織を設立し、地域の農地を集約して管理していくことに対して支援を行っていく。

### 【早急に取り掛かる取組み】

- 支援対象、条件や内容を検討する。

### 【中・長期的な取組み】

- 営農を目指す農業者については、農業委員会などを通じて地域をつなぎ、地域の農業を支えてくれる農業者となってもらえるよう支援していく。

### 【スケジュール】

年度	2	3	4	5	6	7
【早急に取り掛かる取組み】						
支援制度の検討	→	→	→			
【中・長期的な取組み】						
農業者と地域をつなぐ取組み		→	→	→	→	→

## 11. 市民菜園運営

### 【施策方針】

- 農業者以外の方にも農業に触れもらうことを目的として、市内に5か所約400区画の市民菜園を開設し、令和2年度約80%の稼働率となっている。市民菜園については、農業に興味を持ってもらうきっかけの場として引き続き開設し、稼働率を上げていく。

### 【早急に取り掛かる取組み】

- 使用環境については、上之山市民菜園以外の4か所は、水を使用することができず、また、空き区画の雑草の管理が課題となっている。より使用しやすく管理された市民菜園となるよう、改善・整備していく。

### 【中・長期的な取組み】

- 農業塾卒塾生のうち、本格的に農業を始めたいが、瀬戸市農地バンク登録農地（最小で約500㎡）では広すぎるという方のため、ステップアップの場として現在の市民菜园区画（約20～40㎡）より大きな区画を提供できるよう検討する。

【スケジュール】

年度	2	3	4	5	6	7
【早急に取り掛かる取組み】						
市民菜園使用者の募集	→	→	→	→	→	→
未使用区画に防草シートを設置	→	→				
使用環境の改善		→	→	→	→	→
【中・長期的な取組み】						
農業塾卒塾生用への農地の提供			→	→	→	→

## 12. 鳥獣による農産物被害対策

【施策方針】

- 市及び県の被害防止対策補助金を活用して、鳥獣による農作物被害を減少させていく。
- 鳥獣の捕獲については、令和元年度に狩猟免許取得費補助金の交付対象費用を拡大したこともあり、新しい方が猟友会に加わり捕獲に参加していただけるようになっており、引き続き新たな捕獲者の確保に努めていく。

【早急に取り掛かる取組み】

- ICT等の導入を検討し、効率的な鳥獣捕獲を行っていく。
- 農作物を鳥獣から守る方法としては、国もしくは市からの補助金を使用した柵等の設置があり、市の補助金については、令和2年度に瀬戸市内に農地を有する市外の方も使用できるように変更したが、より使いやすい制度へと変更していく。

【スケジュール】

年度	2	3	4	5	6	7
【早急に取り掛かる取組み】						
ICT等の導入検討		→	→	→	→	→
補助金交付要綱の見直し	→	→	→	→	→	→

## 13. 瀬戸市農地バンク制度

【施策方針】

- 農地を借りたいとの問合せはあるものの、登録農地では面積、場所が希望に合わないケースや、希望する使用方法では地主の了承を得ることができないケースが多々ある。借入を希望する農業者の要望を個々に聞き取り、要望に沿った農地調査し、紹介していくことに力を入れていく。

【早急に取り掛かる取組み】

- 耕作放棄地を確実に活用していくために、瀬戸市農地バンクの登録数を増やすだけでなく、日ごろから農業委員会委員及び農地利用最適化推進員を中心に農地の情報を収集するとともに、要望に沿った農地を探すなどして、農業者と農地のマッチングを図

っていく。合わせて、地主が安心して農地を貸出することができるよう、9. 農業塾や 11. 市民菜園の事業を通じて農地を適正に利用できる農業者を育成していく。

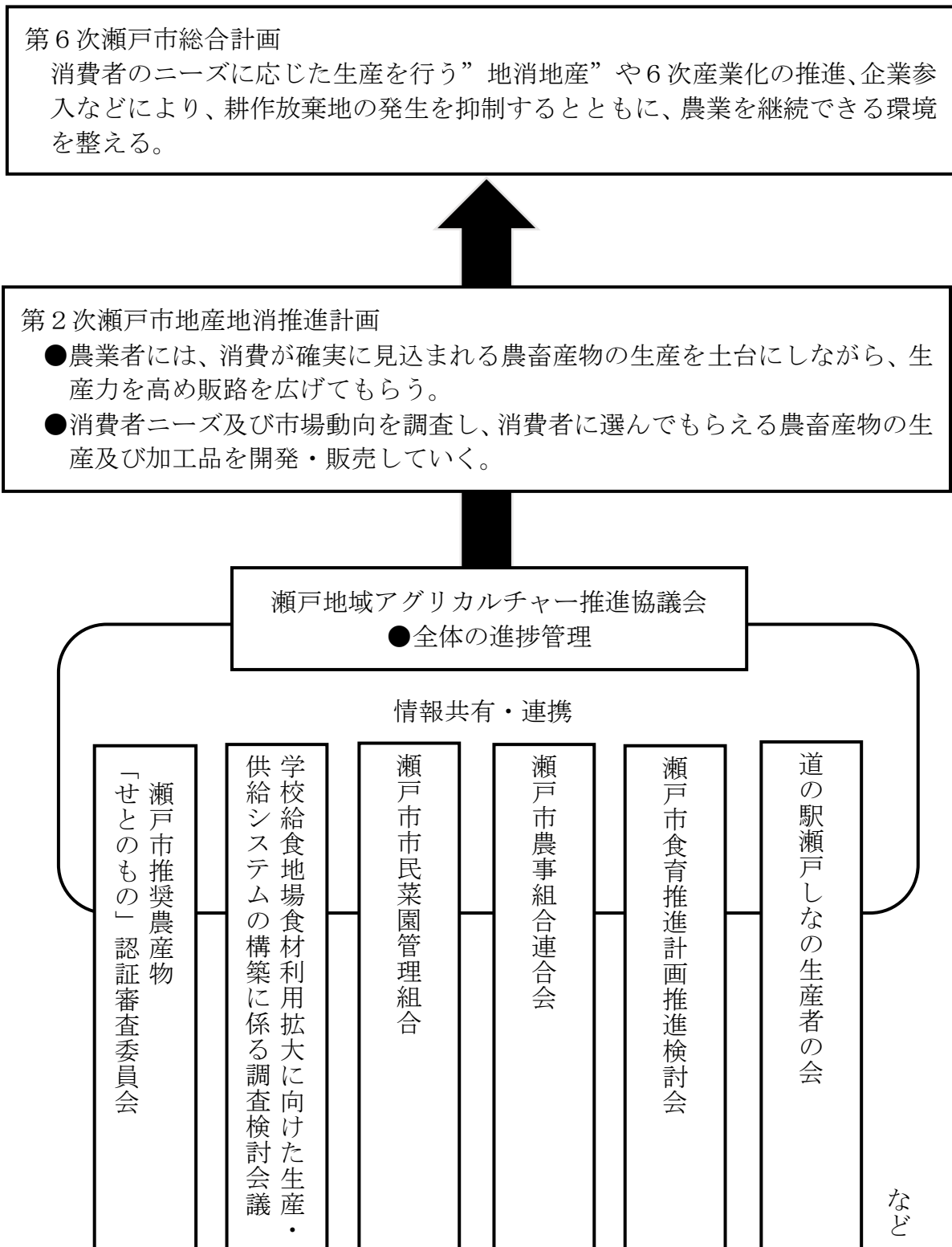
【スケジュール】

年度	2	3	4	5	6	7
【早急に取り掛かる取組み】						
農業者と農地のマッチング	→	→	→	→	→	→

## 第8章 推進体制

第2次計画の推進にあたっては、瀬戸地域アグリカルチャー推進協議会が全体の進捗管理を行っていくこととする。

また、個別の施策については、関係者で構成する会議等で実施し、相互に情報を共有し連携を図りながら取組みを進めていく。



●瀬戸市の農業の状況

○農家数

各年2月1日現在 単位：戸

	総農家数	販売農家数				自給的農家数
		計	専業農家	第1種兼業	第2種兼業	
平成12年	796	218	29	20	169	578
平成17年	721	154	24	14	116	567
平成22年	654	130	22	10	98	524
平成27年	593	123	33	10	80	470

資料：農林業センサス

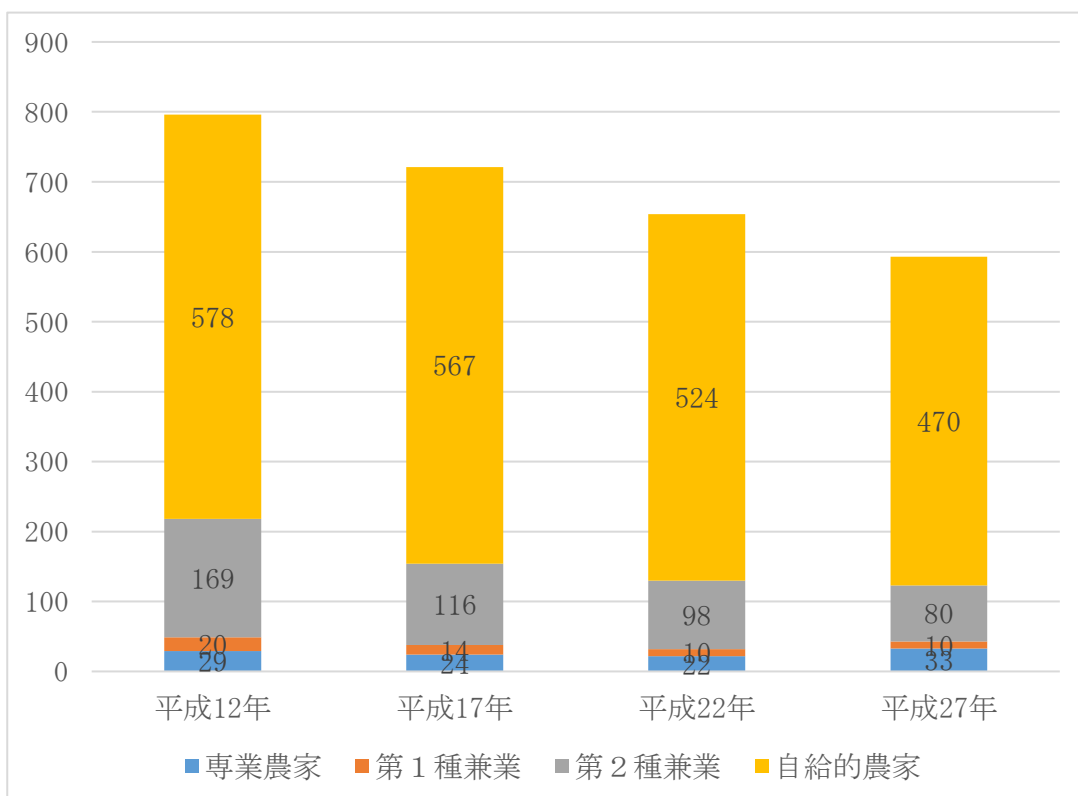
専業農家：世帯員の中に兼業従事者がいない農家

第1種兼業：世帯員の中に兼業従事者がおり農業を主とする農家

第2種兼業：世帯員の中に兼業従事者がおり農業を従とする農家

販売農家：経営耕地面積30a以上又は農産物販売金額50万円以上の農家

自給的農家：経営耕地面積30a以上又は農産物販売金額50万円未満の農家



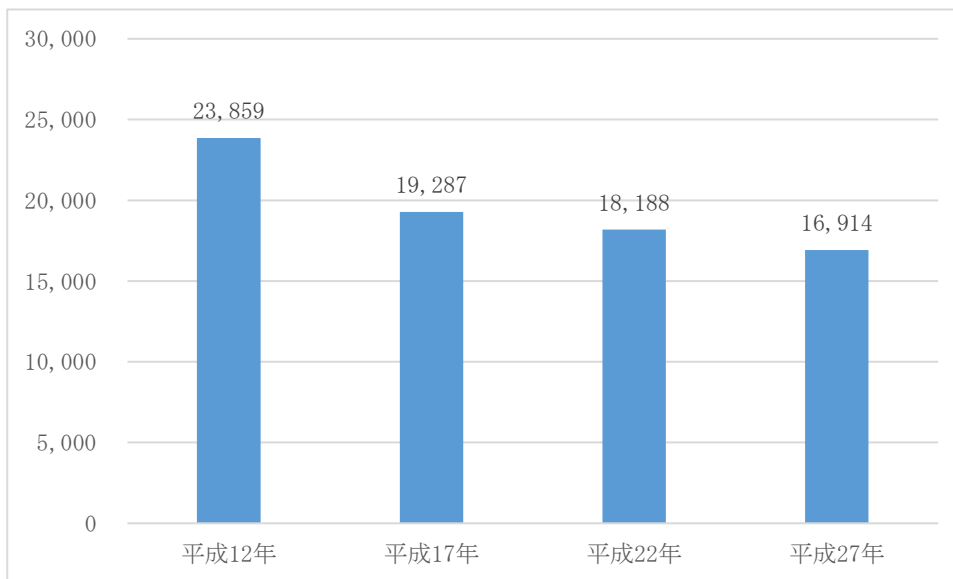
農家総数は年々減少傾向にあり、また、農家総数に占める自給的農家数の割合が、平成27年度で79%と多いことが本市の特徴といえる。

## ○経営耕地面積

各年2月1日現在 単位：a

	総面積
平成12年	796
平成17年	721
平成22年	654
平成27年	593

資料：農林業センサス



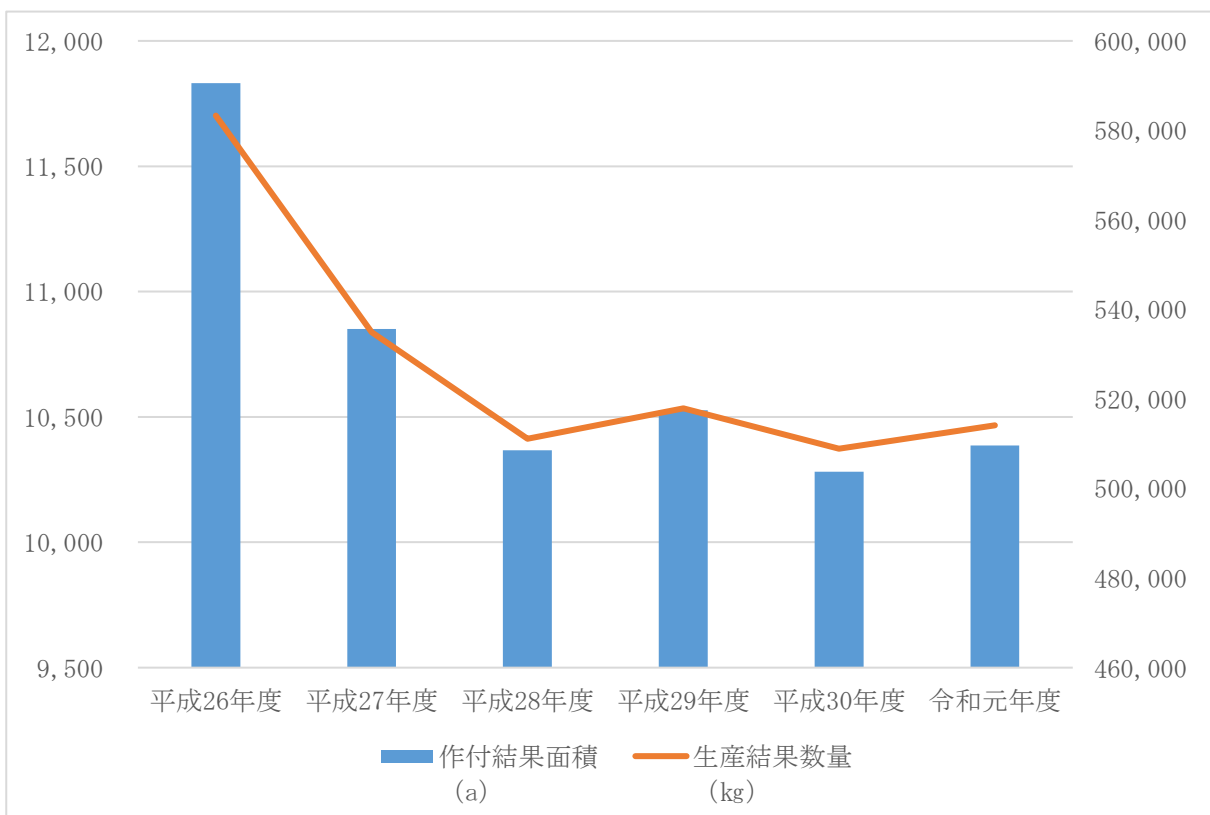
農家総数の減少と比例して、経営耕地面積も減少している。すなわち、経営できなくなった農地が、農業者にあまり集約されていないともいえる。



○水稲

	作付結果面積 (a)	生産結果数量 (kg)
平成 26 年度	11,832	583,317
平成 27 年度	10,851	534,954
平成 28 年度	10,367	511,111
平成 29 年度	10,527	517,910
平成 30 年度	10,281	508,905
令和元年度	10,386	514,107

資料：瀬戸市地域農業再生協議会



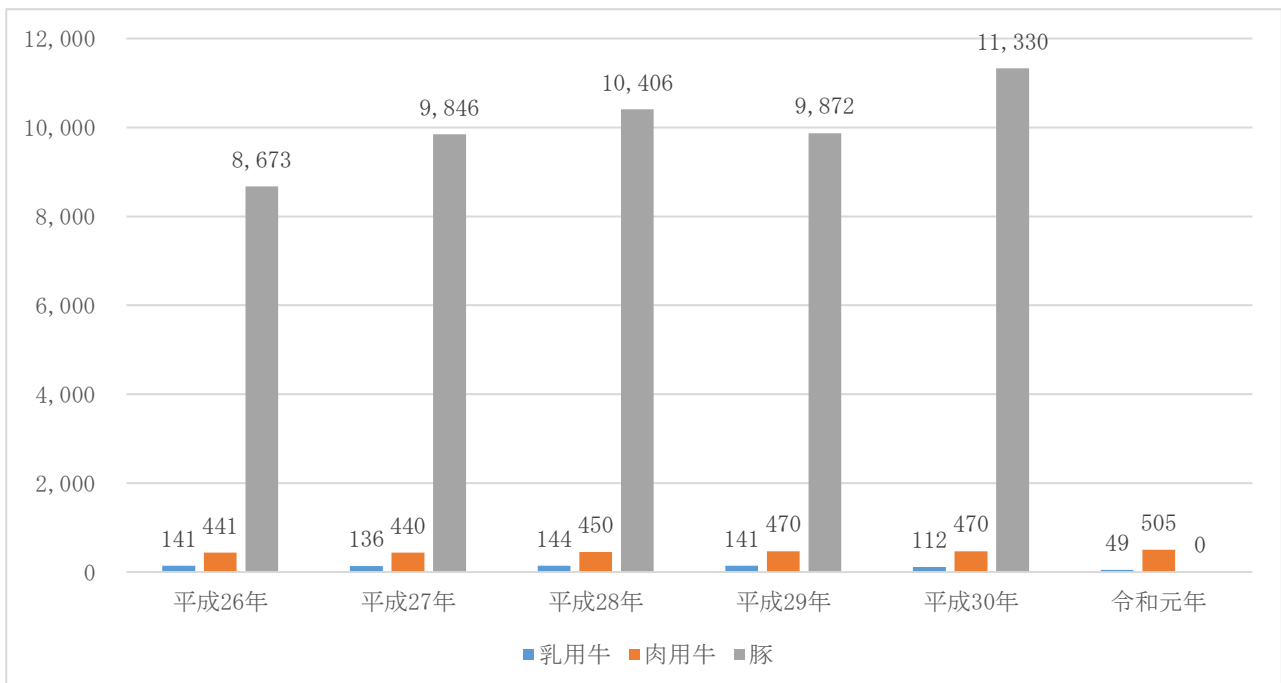
平成 26 年度から平成 28 年度にかけて減少していたが、近年は横ばい傾向にある。

○畜産

各年 10 月 1 日現在

		平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
乳用牛	戸数	4	4	4	4	3	2
	頭数	141	136	144	141	112	49
肉用牛	戸数	2	2	2	2	4	3
	頭数	441	440	450	470	470	505
豚	戸数	3	3	3	3	3	3
	頭数	8,673	9,846	10,406	9,872	11,330	0
鶏	戸数	1	1	1	1	1	1
	頭数	×	×	×	×	×	×

資料：瀬戸市統計



乳用牛については、平成26年度と令和元年度を比較すると、廃業により約半分になっている。

豚については、平成31年3・4月に市内養豚農場で発生した豚熱（CSF）により、一時的に飼育頭数が0頭となっているが、令和2年に3件の養豚農家が経営を再開している。

●ふるさと納税返礼品において農畜産物が選択される割合

	ふるさと納税件数 ①	返礼品で瀬戸の豚関連商品を選択した件数 ②	②÷①
平成29年度	82件	42件	51.2%
平成30年度	143件	60件	42.0%

●イノシシの捕獲頭数と農作物被害面積・額の推移

	イノシシ 捕獲頭数	農作物の被害状況		
		被害面積	被害量	被害金額
平成26年度	182頭	178a	4,177kg	1,000千円
平成27年度	135頭	138a	4,766kg	805千円
平成28年度	254頭	258a	7,108kg	1,266千円
平成29年度	338頭	245a	8,827kg	1,402千円
平成30年度	284頭	251a	9,149kg	1,581千円

●道の駅瀬戸しなの食堂における瀬戸の豚を使用したメニューの売上割合

	商品名称	単価	2018年7月		2018年8月		2018年9月		2019年1月		2019年2月		合計		
			数量	税込売上額	数量	税込売上額	数量	税込売上額	数量	税込売上額	数量	税込売上額	数量	税込売上額	割合
1	瀬戸焼そば	430	1,450	623,500	1,869	803,670	1,408	605,440	1,435	617,050	1,841	791,630	8,003	3,441,290	16.4%
2	瀬戸焼そば大盛	530	670	355,100	918	486,540	670	355,100	725	384,250	908	481,240	3,891	2,062,230	9.8%
3	瀬戸カツ丼	780	383	298,740	472	368,160	473	368,940	364	283,920	426	332,280	2,118	1,652,040	7.9%
4	焼きそば定食	600	439	263,400	564	338,400	420	252,000	495	297,000	579	347,400	2,497	1,498,200	7.1%
5	しょうが焼き定食	700	331	231,700	403	282,100	392	274,400	337	235,900	583	408,100	2,046	1,432,200	6.8%
6	豚みそ丼	650	433	281,450	475	308,750	464	301,600	359	233,350	390	253,500	2,121	1,378,650	6.6%
7	しなのラーメン	680	317	215,560	417	283,560	322	218,960	300	204,000	316	214,880	1,672	1,136,960	5.4%
8	モーニングセットB	400	432	172,800	536	214,400	478	191,200	409	163,600	508	203,200	2,363	945,200	4.5%
9	農家さん限定ランチ	700	283	198,100	285	199,500	276	193,200	237	165,900	263	184,100	1,344	940,800	4.5%
10	瀬戸豚かつ定食	800	223	178,400	231	184,800	227	181,600	221	176,800	248	198,400	1,150	920,000	4.4%
11	道の駅定食	600	234	140,400	316	189,600	334	200,400	289	173,400	321	192,600	1,494	896,400	4.3%
12	自然薯とろろそば	680	272	184,960	366	248,880	245	166,600	194	131,920	209	142,120	1,286	874,480	4.2%
13	モーニングセットA	400	322	128,800	346	138,400	345	138,000	246	98,400	281	112,400	1,540	616,000	2.9%
14	瀬戸豚カツサンド	600	150	90,000	251	150,600	178	106,800	158	94,800	151	90,600	888	532,800	2.5%
15	自然薯とろろ丼	680	70	47,600	98	66,640	94	63,920	80	54,400	97	65,960	439	298,520	1.4%
16	肉そば	680	150	102,000	135	91,800	82	55,760					367	249,560	1.2%
17	カツカレー	800	56	44,800	66	52,800	59	47,200	50	40,000	50	40,000	281	224,800	1.1%
18	瀬戸焼そば(外売)	430							230	98,255	295	124,915	525	223,170	1.1%
19	コーヒー	300							297	89,100	369	110,700	666	199,800	1.0%
20	ソフトクリーム(バニラ)	300	233	69,900	242	72,600	184	55,200					659	197,700	0.9%
21	カレー	550	66	36,300	70	38,500	69	37,950	34	18,700	53	29,150	292	160,600	0.8%
22	ソフトクリーム(ほうじ茶)	300	142	42,600	153	45,900	129	38,700					424	127,200	0.6%
23	瀬戸豚ドッグ	300	113	33,900	159	47,700	141	42,300					413	123,900	0.6%
24	ケーキセット	500	29	14,500	29	14,500	46	23,000	56	28,000	65	32,500	225	112,500	0.5%
25	豚汁	100	170	17,000	175	17,500	246	24,600	236	23,600	233	23,300	1,060	106,000	0.5%
26	ぜんざい	300	17	5,100	21	6,300	22	6,600	156	46,800	54	16,200	270	81,000	0.4%
27	瀬戸豚コロケバーガー	300	51	15,300	92	27,600	95	28,500					238	71,400	0.3%
28	かき氷	350	75	26,250	105	36,750	19	6,650					199	69,650	0.3%
29	ソフトぜんざい	350	83	29,050	69	24,150	45	15,750					197	68,950	0.3%
30	和菓子セット	300	56	16,800	57	17,100	44	13,200	34	10,200	38	11,400	229	68,700	0.3%
31	コーヒーチケット	3,000							9	27,000	11	33,000	20	60,000	0.3%
32	ちょこっと豚とろろ丼	390	33	12,870	46	17,940	52	20,280					131	51,090	0.2%
33	白飯	100	90	9,000	87	8,700	106	10,600	96	9,600	95	9,500	474	47,400	0.2%
34	瀬戸おやき	150	106	15,900	95	14,250	75	11,250					276	41,400	0.2%
35	すき焼き定食	1,200	19	22,800	4	4,800	-	-					23	27,600	0.1%
36	紅茶	300							28	8,400	22	6,600	50	15,000	0.1%
37	ビール(缶)	360							13	4,680	18	6,480	31	11,160	0.1%
38	ジュース	300							17	5,100	8	2,400	25	7,500	0.0%
合計			7,498	3,924,580	9,152	4,802,890	7,740	4,055,700	7,105	3,724,125	8,432	4,464,555	39,927	20,971,850	100.0%

瀬戸焼そば関連	14,916	7,224,890	34.5%
瀬戸の豚関連	8,974	6,110,990	29.1%
合計	23,890	13,335,880	63.6%

●学校給食の農産物発注量（平成30年度）

（単位：kg）

	農産物名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	たまねぎ	2,739	6,035	5,901	3,699	0	4,412	5,208	5,426	4,973	4,055	1,441	3,229	47,118
2	にんじん	2,475	3,132	3,411	2,034	0	3,296	3,294	4,377	2,319	3,671	3,317	2,690	34,016
3	キャベツ	1,366	2,644	3,143	2,145	0	3,052	3,061	3,179	1,232	2,631	3,351	1,860	27,664
4	じゃがいも	1,937	3,062	2,494	1,211	0	2,550	1,704	3,072	2,003	2,958	2,275	1,623	24,889
5	きゅうり	653	1,645	1,561	1,234	0	1,154	1,254	1,459	668	718	283	641	11,269
6	だいこん	524	1,175	428	521	0	624	2,119	1,148	1,088	1,677	533	335	10,172
7	こまつな	378	1,180	857	833	0	1,116	1,093	1,034	401	536	1,422	798	9,648
8	はくさい	162	441	202	0	0	404	2,121	1,388	1,467	1,707	982	140	9,014
9	葉ねぎ	684	711	1,132	423	0	710	1,096	742	548	913	777	402	8,137
10	太もやし	567	243	1,112	772	0	641	1,150	1,149	696	1,075	185	450	8,040
11	ほうれんそう	623	850	522	180	0	495	696	885	378	943	431	476	6,479
12	ごぼう	318	363	433	61	0	168	623	654	380	535	0	555	4,089
13	さといも	64	280	0	0	0	432	806	441	204	224	1,248	0	3,699
14	チンゲンサイ	490	363	303	321	0	88	296	444	0	451	297	378	3,430
15	ブロッコリー	0	217	0	0	0	0	208	193	869	794	333	200	2,814
16	しめじ	44	97	48	88	0	57	577	316	35	212	853	128	2,454
17	とうがん	0	0	628	564	0	826	0	0	0	0	0	0	2,018
18	えのきたけ	165	155	196	93	0	142	160	205	0	124	44	98	1,383
19	さつまいも	0	0	0	0	0	0	253	357	254	0	123	0	987
20	にら	72	68	159	68	0	167	108	68	103	72	28	37	949
21	ぶなしめじ	0	265	202	84	0	118	0	84	0	0	0	0	754
22	なす	0	0	0	209	0	385	0	0	0	0	0	0	594
23	ミニトマト	0	38	159	159	0	160	76	0	0	0	0	0	592
24	切干しだいこん	46	68	61	38	0	0	65	27	114	53	0	91	562
25	根みつば	0	52	35	53	0	0	76	67	35	70	18	70	475
26	赤ピーマン	38	50	31	21	0	0	25	66	46	50	74	41	442
27	青ピーマン	18	54	54	27	0	134	66	0	0	0	35	0	387
28	パセリ	22	36	34	12	0	46	25	36	25	19	23	25	302
29	アスパラガス	195	104	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	298
30	しょうが	20	12	26	6	0	26	24	36	7	19	10	15	201